

熊本県民第九の会 第35回  
第60回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

# 第九

第35回

平成30年12月23日(日)午後2時30分  
熊本県立劇場コンサートホール

主催／熊本県民第九の会

共催／(公財)熊本県立劇場・熊本県文化協会

後援／RKK・熊本日日新聞社・NHK 熊本放送局・エフエム熊本・FM791

うふふ。

65<sup>th</sup> RKK

RKKは開局65周年

毎日の小さな喜びに寄り添う  
放送局であること。

スヤスヤと気持ち良さそうに眠る  
わが子の寝顔に「うふふ。」  
お弁当作り。今までにない  
オムライスの出来栄に「うふふ。」  
何年も育てている観葉植物。  
新しい命を見つけて「うふふ。」  
決して大きな喜びでは  
ないのかもしれないけれど、  
思わず微笑んでしまったり  
小さな「うふふ。」が積み重なったら、  
その日はきつといい一日。  
そんな日々が一番近い放送局でありたい、  
とRKKは思うのです。  
ハッピーをいつも楽しんでいただける  
番組をお届けすること。  
参加して笑顔になっただけ  
イベントを行うこと。  
皆さまの小さな喜びに寄り添って、  
みんなで幸せを実感できる  
ふるさとづくりに貢献したい。  
65周年という節目にあたり、  
「うふふ。」と微笑みながら  
夢を描いている私たちです。

RKK  
熊本放送





熊本県知事  
蒲島 郁夫

第35回ベートーヴェン「第九交響曲」演奏会の開催を心からお喜び申し上げます。この演奏会は年末の風物詩として、広く県民に親しまれています。長年にわたる関係者の皆様の熱意とご努力に対しまして、深く敬意を表します。

今年の演奏会は、国際的に高い評価と人気を博する大友直人氏が第2回の演奏会以来35年ぶりに指揮をとられます。その卓越した指揮のもと、第一線で活躍されている4人のソリストと県内各地から応募された250人の合唱の方々、熊本交響楽団の洗練された調べに乗せて、第九の「歓喜の歌」を声高らかに熱唱されます。

今宵、力強い歌声が県立劇場のコンサートホールいっぱいに響き渡り、会場全体が感動の渦に巻き込まれることでしょう。この「歓喜の歌」を聴きながら、今年一年の出来事を振り返り、新しい一年への夢と希望を持っていただければと思います。

県では、「災害に強く誇れる資産を次代につなぎ夢にあふれる新たな熊本の創造」を基本理念に、熊本の優れた文化を守り、磨き上げ、次世代へ継承する取組みを進めています。「熊本県民第九の会」の皆様には、今後とも、県民一体となって創り上げてこられたこの「第九」の演奏会を通して、本県文化の振興にお力添えをいただきますようお願いいたします。

最後に、本日の演奏会のご盛会と、ご出演の皆様のご活躍を祈念してお祝いの言葉といたします。



熊本県立劇場理事長  
姜 尚中

第35回 ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

日本各地で老若男女を問わず広く市民に親しまれ愛されてきた「第九」は、日本初演から今年で100年を迎えました。熊本県でも師走の風物詩として親しまれている本公演も、熊本県立劇場が開館した昭和57年に落成記念事業として開催され、今回で35回目の演奏会を迎えます。これも「熊本県民第九の会」の皆様の長年にわたるご尽力の賜物であり、深く敬意を表します。

今回は、日本を代表する指揮者である大友直人さんを35年振りにお迎えして演奏されます。熊本出身の佐々木典子さん、大澤一彰さんをはじめ、大林智子さん、牧野正人さんといった第一線で活躍されているソリストと、県内から公募された合唱団の方々が、熊本交響楽団の調べに乗せて「歓喜の歌」を声高らかに熱唱されます。コンサートホールいっぱいに響き渡る神秘的で躍動感のある音楽は、一年の締めくくりに対応しいものとなることでしょう。

最後に、熊本地震発生から2年8ヶ月経ちましたが、シラーの詩「歓喜の歌」の“Alle Menschen werden Brüder=すべての人々はみな兄弟になる”という歌詞の通り、熊本だけでなく、全国の人々が互いに手を取り助け合い、復興へ向け奮闘してきました。この「第九」演奏会が、再生へ向かう熊本を大きく後押ししてくれることを願っております。

本日の演奏会のご盛会と、熊本県民第九の会のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



熊本県文化協会会長  
村上 輝和

第35回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。熊本県立劇場の柿落しとして始まったこの演奏会は、35回目を迎えています。全国的にも「第九」の演奏会は、師走の風物詩となっていますが、熊本県でも恒例の県民参加の音楽祭として多くの皆様に親しまれてきました。今回の指揮者には、国内外でご活躍の大友直人先生を迎えて、ソリストには、ソプラノに佐々木典子さん、アルトに大林智子さん、テノールに大澤一彰さん、バスに牧野正人さんの4人をお迎えされ、県内公募による250人の熊本県民第九の会合唱団、熊本交響楽団80名の管弦楽と共に「歓喜のうた」を歌われます。客席の皆様と一体になり、高らかに響く歌声は感動の渦に包まれることでしょう。あの悪夢の地震から2年8ヶ月が経ちましたが、創造的復興へ向けて、県民の心に大きな力になることでしょう。昭和57年から様々な困難を克服しながら、今日まで継続してこられたのも、ひとえに、第九を愛してやまない実行委員会が、合唱団、そして、熊本交響楽団とのしっかりした連携、協力されてこられた結果だと思えます。結びになりますが、今年も演奏者と観客が一体となった歓びに満ち溢れることを期待するとともに、熊本県民第九の会が益々ご発展されますことをご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。



熊本県民第九の会実行委員長  
神田 一伸

本日は演奏会へ足をお運びいただき心より感謝申し上げます。激動の一年も余すところ1週間となってまいりました。平成最後の「熊本県民第九の会」ということで今年も高らかに歓喜の歌を歌いたいと思っています。今年の指揮者は昭和58年、今から35年前に第2回演奏会の指揮者として初めて熊本で第九を指揮されたマエストロ大友直人先生です。何度も候補に挙げておりましたが今回ようやく念願が叶いました。ソリストにはソプラノに熊本出身の佐々木典子先生、アルトは第21回・30回に続いて3度目の大林智子先生、テノールは熊本出身の大澤一彰先生、バリトンは第33回演奏会で好評を博した牧野正人先生です。指揮者・ソリスト共に最高の顔ぶれとなりました。「熊本県民第九の会」も37年目です。第30回演奏会から取り組んでおります他団体との交流や第九（歓喜のうた）の部分のアンコールでの全員合唱なども継続して取り組んでゆこうと思っております。ご唱和の程よろしくお願い申し上げます。幸いにも多くの方々に助けをいただき、毎回立派な第九演奏会を持つという夢を叶えることができている。これもひとえに第九を愛してやまない皆様の温かいご支援があったことと感謝しています。最後になりましたが熊本県文化協会、熊本県立劇場を始め関係各位のご協力に心より感謝申し上げます。今後とも「熊本県民第九の会」末永くご支援のほどどうか宜しくお願い申し上げます。最後までごゆっくりお楽しみください。



指 揮 大 友 直 人  
 独 唱 ソプラノ 佐々木 典 子  
           メゾ・ソプラノ 大 林 智 子  
           テノール 大 澤 一 彰  
           バリトン 牧 野 正 人  
 合 唱 熊本県民第九の会合唱団

音楽指導顧問 : 岩 津 整 明  
 合唱指揮 : 岩 代 和 武 河 添 富士子  
           中 島 章 利 平 和 孝 嗣  
           松 岡 聡 南 迪 子  
 ピアノ : 川 辺 里 美 隈 部 文  
           古 閑 恵 美 砂 泊 宇 希  
           林 原 ゆ り 星 子 眞 澄

管 弦 楽 熊本交響楽団



平成29年12月3日(日)《第34回熊本県民第九の会演奏会(指揮=松井慶太)》



指 揮 大 友 直 人

Naoto Ôtomo

現在、群馬交響楽団音楽監督、東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督。また、2004年から8年間にわたり、東京文化会館の初代音楽監督を務めた。

在京オーケストラの定期演奏会にとどまらず、これまでにコロラド交響楽団、インディアナポリス交響楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団などに招かれ、2012年3月にはハワイ交響楽団のオープニングコンサートを指揮、以降定期的に客演し、同年6月にはロレーヌ国立管弦楽団の定期公演に客演、絶賛された。2013年にはエネスク国際音楽祭に招かれ「弦楽八重奏曲 op.7」を演奏。“繰り返し演奏されているが、今回の演奏は最高の演奏”“日本のオーケストラ演奏が西洋音楽への新しい希望を見出した”と評され、欧米での活躍にも大きな期待が寄せられている。

オペラにも力を入れており、1988年日生劇場における《魔弾の射手》でのオペラデビュー以来、オペラの指揮も高く評価されている。特に、2006年8月にプッチーニ音楽祭にて三枝成彰作曲オペラ《Jr. バタフライ》(2014年にも同音楽祭で再演)や、2013年1月には同作曲家のオペラ《KAMIKAZE-神風-》の世界初演、そして2014年1月には千住明作曲新作オペラ《滝の白糸》を指揮し、大きな話題となった。

クラシックと他のジャンルとのコラボレーションによる新たな音楽シーンを発信しており、既成のジャンルや表現形式に捉われない新しい形の舞台芸術をプロデュースするなど、音楽プロデューサーとしても新しい音楽シーンを牽引している。

教育的活動にも力を注ぎ、国際音楽セミナー「ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン」を盟友である指揮者アラン・ギルバートと毎年開催するなど、活発な活動を行っている。

2000年第8回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2008年第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。



佐々木 典子 (ささき のりこ)  
ソプラノ

熊本県出身。武蔵野音楽大学卒業。ザルツブルグモーツァルト芸術大学オペラ科首席で卒業、ウィーン国立歌劇場オペラスタジオを経て、ウィーン国立歌劇場専属歌手として活躍。ウィーン国立歌劇場日本公演、ザルツブルク音楽祭に出演。帰国後、新国立劇場『こうもり』ロザリンデ、二期会『魔笛』パミーナ、『真夏の夜の夢』ヘレナ、『こうもり』ロザリンデ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、『ばらの騎士』元帥夫人と大喝采を浴び、国内プロダクションの上演には主役として不可欠な存在として、その地位を確立。二期会・新国共催、市川團十郎演出の『鳴神』雲の絶間姫、宮本亜門演出『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『椿姫』ヴィオレッタ、『フィガロの結婚』伯爵夫人など好評を博す。特にリヒャルト・シュトラウスのオペラでは、傑出した演奏が絶賛を浴び、『ダナエの愛』（日本初演、演奏会形式）、『ダフネ』（新制作・日本初演）のタイトル・ロールの表情豊かで瑞々しい演唱で聴衆を深く魅了した。びわ湖・神奈川県民『ばらの騎士』の元帥夫人で絶賛を博し、続く『ナクス島のアリアドネ』プリマドンナ／アリアドネ、東京二期会『カプリッチョ』（新制作）伯爵令嬢マドレーヌに主演し、聴衆を魅了した。日生劇場とびわ湖ホールにおいて『ドン・ジョヴァンニ』（ライン・ドイツ・オペラと東京二期会との共同制作）ドンナ・エルヴィーラ、ワーグナー『タンホイザー』エリーザベト（びわ湖ホール及び神奈川県民ホール）に出演し高い評価を得る。ナミレコードよりCD『R.シュトラウス：歌曲集「四つの最後の歌」』をリリースし高い評価を得ている。90年熊本県女性賞授与。2000年第2回ホテルオークラ音楽賞受賞。2014年度 東燃ゼネラル音楽賞（旧：エクソンモービル音楽賞）洋楽部門本賞。東京芸術大学教授。二期会会員

大林 智子 (おおばやし ともこ)  
メゾ・ソプラノ

東京芸術大学卒業。同大学院修了。二期会オペラ・スタジオ修了時に優秀賞受賞。1992年度文化庁芸術インターンシップ研修員。2005年度文化庁在外研修員としてドイツ・ミュンヘンに留学。二期会オペラ・スタジオ在籍中に二期会公演『ワルキューレ』グリムゲルデでデビュー。その後二期会公演『ヘンゼルとグレーテル』のヘンゼルに抜擢され、以来当たり役として、文化庁子供劇場等で回を重ねた。新国立劇場に於いては、ワーグナー『ニーベールの指環』の『ラインの黄金』フロスヒルデ、『ワルキューレ』ヴァルトラウテ、『神々の黄昏』フロスヒルデ、子供オペラ『ジークフリートの冒険』、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『蝶々夫人』スズキ、『ファルスタッフ』ページ夫人メグ、『鹿鳴館』（初演）草のを歌い、日本人離れた歌唱力と演技力を高く評価された。コンサート活動でも、日本各地のオーケストラと第九、モーツァルト『レクイエム』、ロッシェニ『小荘厳ミサ』、バッハ『短調ミサ』、『マニフィカート』、ベートーヴェン『ハ長調ミサ』、ヘンデル『メサイヤ』、ドヴォルザーク『スタバート・マーテル』、デュリュフレ『レクイエム』等のアルト・ソロを務める。また、海外に於いてもニューヨークのカーネギーホール、ドイツ・コブレンツ、ドレスデン、ウィーン楽友協会などで『第九』のアルト・ソロに招かれ、現地のオーケストラと共演している。2013年より、様々な楽器や声のゲストを招いて、主催音楽会『Stern Konzert』を開催する等、歌曲の世界にも活動の幅を拡げ、円熟の時を迎えている。父が熊本・山鹿、母が福岡・八女、夫が熊本出身ということもあり、九州に対する愛情に溢れている。

大澤 一彰 (おおさわ かずあき)  
テノール

熊本市出身。東京芸術大学卒業、ローマで研鑽を積む。第44回日伊音楽コンクール第1位、併せてYKK音楽賞、読売新聞社賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞、イタリア文化会館賞等を受賞。第1回ルーマニア国際音楽コンクール声楽部門第1位、及び全部門より最優秀賞。新聞紙上にて「耳を奪う美声」と絶賛される。180cmを越える恵まれた体躯と輝く高音で、オペラでは常にプリメテノールを務めており、松尾葉子指揮『アイダ』ラダメス、林康子プロデュース『蝶々夫人』ピンカートン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『トスカ』カヴァラドッシ、『トゥーランドット』カラフ等出演、「豊かな美声を長いブレスで聴かせ、役作りも的確。大柄な身体が舞台映えする（音楽の友誌）」等、いずれも高い評価を得る。また、現代作品の解釈にも優れ、日生劇場『リア王』（日本初演）では、難解な新作を見事に歌い、作曲者ライマン自身より最上級の賛辞を受ける。2012年東京二期会『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウのドラマティックな歌唱は、NHKプレミアムシアターで全国放映された。'13年「第56回NHKニューイヤーオペラコンサート」、『らららクラシック』出演。'14、'15年、両国国技館『5000人の第九』ソリスト。CD『シチリアーナ』リリース。熊本での活躍としては、熊本城築城400年記念オペラ『南風吹けば楠若葉』主役の横手五郎惟宗、NHK熊本「くまもと歌物語音楽祭」、『熊本県民第九』、山田和樹指揮『熊本県立劇場30周年記念ガラコンサート』、『海道東征』等出演。熊本地震の際には御船町のコンサートに駆けつけ、歌声で被災者を勇気づけた。2017年1月熊本県立劇場『佐々木典子&大澤一彰デュオリサイタル』では、NHK熊本児童合唱団と共にオペラ『夕鶴』の演唱で、観客の涙を誘った。オフィシャルページ <http://www.k-osawa.com/> 二期会会員

牧野 正人 (まきの まさと)  
バリトン

所属する藤原歌劇団ではこれまで、『ドン・ジョヴァンニ』『蝶々夫人』『チェネレントラ』『セビリアの理髪師』『アイダ』『ボエーム』『ルチア』『カルメン』『シモン・ボッカネグラ』『愛の妙薬』『アンドレア・シェニエ』『ファウスト』『マクベス』『アルジェのイタリア女』『アドリアーナ・ルクヴルール』『トスカ』『道化師』などに出演。藤原歌劇団を代表するバリトン歌手として活躍。新国立劇場では開場以来、オープニング公演（ゼッフィレリ演出）『アイダ』にアモナスロ役で出演後、『セビリアの理髪師』『蝶々夫人』『ボエーム』『リゴレット』『ナブッコ』『椿姫』『夕鶴』など出演を重ねている。また15年間にわたり、国立音大の音楽研究所に所属し、モンテヴェルディの『オルフェオ』、ペーリ『エウリディーチェ』、カリッシミ『イエフテ』、チェスティ『オロンテア』などの公演に参加。『イタリア初期バロック時代の歌唱法について』『イタリア声楽曲におけるメリスマ音型の歌唱』などの研究論文を発表し、バロック時代の演奏と研究は高い評価を受けている。『歌と詩の解釈、通奏低音のセミナー』など、多くの音楽セミナーや講習会に講師として参加し、バロック時代の歌唱法を基にした発声法や演奏表現を後進に伝えている。国立音楽大学声楽科卒業、大学院修了。第3回日仏音楽コンクール第1位・審査員特別賞、第19回民音コンクール第3位、第16回日伊音楽コンクール・シエナ大賞受賞。1988～89年イタリア・ミラノに留学。発声、演奏法をM・カルボーネ、R・エリー、舞台表現をM・レアレの各氏に師事。パヴィーア国際音楽コンクール第2位、エンナ市主催F・P・ネリア国際音楽コンクール第1位入賞。第23回ジローオペラ賞、平成11年浜松市ゆかりの芸術家顕彰受賞。洗足学園音楽大学客員教授。藤原歌劇団団員。（公財）日本オペラ振興会評議員。日本ロッシェニ協会々員。



1. 歌劇「どろぼうかささぎ」序曲

ロッシーニ作曲

2. 交響曲第9番 二短調 作品125 「合唱付き」

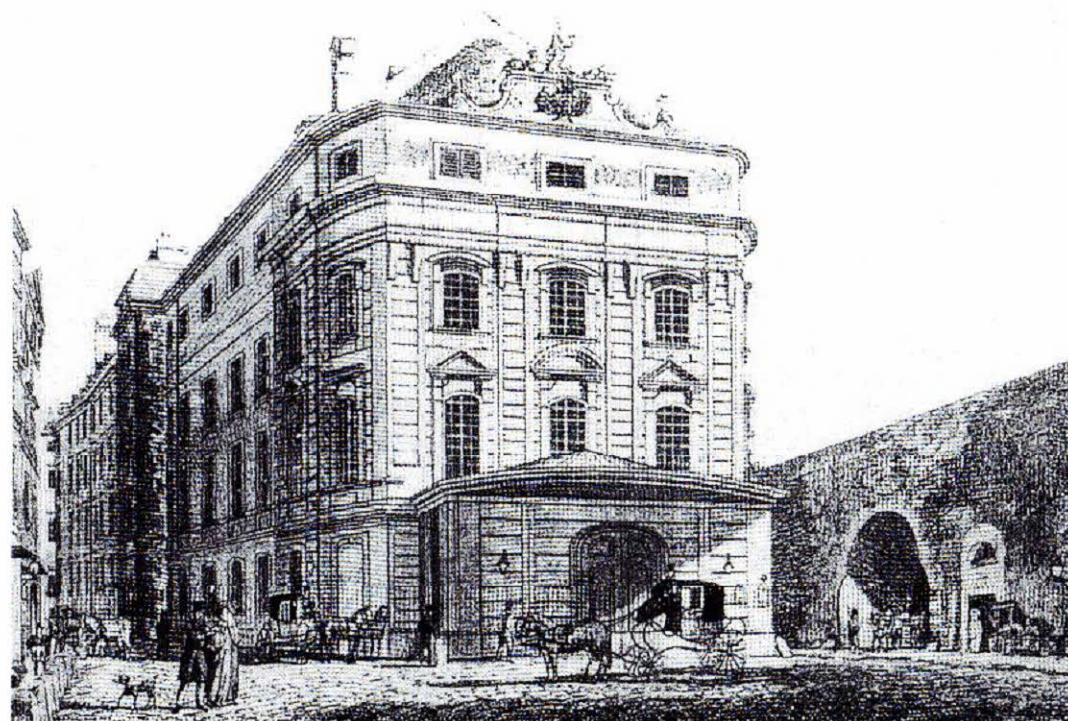
ベートーヴェン作曲

第1楽章 Allegro ma non troppo e un poco maestoso

第2楽章 Molto vivace

第3楽章 Adagio molto e cantabile

第4楽章 FINALE



ベートーヴェンの第九交響曲の初演が行われたウィーンのケルントナート劇場

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳=大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern  
laßt uns angenehmere anstimmen, und  
freudenvollere.

バリトン独唱

おお、友よ、この調べではなく、  
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを  
ともに歌おう！

Freude, schöner Götterfunken,  
Tochter aus Elysium,  
Wir betreten feuertrunken,  
Himmlische, dein Heiligtum !  
Deine Zauber binden wieder,  
Was die Mode streng geteilt ;  
Alle Menschen werden Brüder,  
Wo dein sanfter Flügel weilt,

バリトン独唱・合唱

歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！  
楽園の娘らよ！  
われらみな、感動に酔い、  
天の高みの神殿に踏み入ろう！  
この世に厳しく引き離された者らを、  
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。  
御身の優しい翼の憩うところ、  
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

Wem der große Wurf gelungen,  
Eines Freundes Freund zu sein,  
Wer ein holdes Weib errungen,  
Mische seinen Jubel ein !  
Ja, wer auch nur eine Seele  
Sein nennt auf dem Erdenrund !  
Und wer's nie gekonnt, der stehle  
Weinend sich aus diesem Bund !

四重唱・合唱

大いなる天の賜物をうけた者らよ、  
真空の友情を勝ち得た者らよ、  
女の優しい愛を得た者らよ、  
歓びの歌を、ともに歌え！  
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも  
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！  
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、  
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

Freude trinken alle Wesen  
An den Brüsten der Natur ;  
Alle Guten, alle Bösen  
Folgen ihrer Rosenspur.  
Küsse gab sie uns und Reben,  
Einen Freund, geprüft im Tod ;  
Wollust ward dem Wurm gegeben,  
Und der Cherub steht vor Gott.

四重唱・合唱

すべてこの世に在るものら、  
自然の胸から歓びを飲み、  
すべての善人も、すべての悪人も、  
喜びの薔薇の小径を行く。  
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、  
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、  
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、  
天使ケルビムは、神の御前立つ。

Froh, wie seine Sonnen fliegen  
Durch des Himmels prächt'gen Plan,  
Laufet, Brüder, eure Bahn,  
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱

歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、  
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、  
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、  
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen, Millionen !  
Diesen Kuss der ganzen Welt !  
Brüder ! über'm Sternenzelt  
Muß ein lieber Vater wohnen.  
Ihr stürzt nieder, Millionen ?  
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?  
Such' ihn überm Sternenzelt !  
Über Sternen muß er wohnen.

合唱

たがいに手を取り合おう、億万の人々よ！  
この口づけを、全世界にあたえよう！  
同朋（はらから）よ、星のかなたには、  
愛する一人の御父が住み給うのだ。  
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。  
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。  
星空のかなたに、王をさがし求めよう！  
星たちのうえに、主は住み給うのだ！



1. 歌劇「どろぼうかささぎ」序曲

ロッシーニ

ロッシーニ (Gioachino Rossini 1792-1868) は、19世紀前半の主要な作曲家である。旋律についての際立った才能と、舞台効果に関する鋭い感覚の持ち主で、そのことにより、かれは瞬間にイタリアオペラ界の寵児となった。特にかれは喜歌劇の分野において秀いでおり、それらの多くは今日もなお上演されている。

歌劇「どろぼうかささぎ」は、1817年ロッシーニ25才のとき、ゲラルディーニの台本によって作曲された二幕のオペラ・ブッフアである。若年ながら歌劇作曲家としてのロッシーニはすでに円熟期の域に達しており、音楽的には著名な「セビリアの理髪師」をしのぐとさえ言われているが、台本がよくなかったため、今日ではほとんど上演されることがなく、序曲だけが演奏会のプログラムを飾っている。

「どろぼうかささぎ」の物語は、小間使いの娘ニネッタは、銀の食器を盗んだ疑いによって処刑されそうになる。しかし処刑直前に、真犯人は金属を好んで樂に持ち帰って隠すという習性を持った鳥「かささぎ」であることが判明、ニネッタは間一髪で救われるというもので、これは実際パリであった話である。ただし現実には、娘は無実が判明する前に処刑されてしまうといったもので、この悲劇的な話しをもとに歌劇の台本が作られたのである。ロッシーニはミラノ・スカラ座からの依頼を受けて、筆の早いかれとしては珍しく、3ヵ月もの時間をかけて完成させている。このオペラの初演は作曲と同じ1817年スカラ座において行われ華々しい成功を収めた。

序曲は、展開部のないソナタ形式で書かれており、マエストロ・マルツィアーレ（厳粛に行進曲風に）の序奏部はいきなり小太鼓の連打で開始され、強い印象を与える。これは死刑台による処刑を連想させるものである。続いて行進曲となり、再び小太鼓の連打があり、それは猛烈なクレッシェンドによって序奏が終わる。アレグロの主部には入ると、まずヴァイオリンとヴィオラによって第1主題が奏され、第2主題はオーボエによって優しく歌われる。なお第1主題の旋律は劇中において獄中のニネッタが父を想い歌う「ええ、これを私のかために、」によるものである。呈示部が終わるとただちに第1主題が再現し、つづいて第2主題が、今度はクラリネットによって奏される。テンポを速め華やかなコーダで曲をしめくくる。

2. 交響曲第9番二短調作品 125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ボンのフィッツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルトナート劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起きた。特に終曲が終わったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

〔第一楽章〕 Allegro ma non troppo e un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然（しょうぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持もち、ときどき第1主題の部分まじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕 Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々とらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と語っている。

〔第三楽章〕 Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明

るく美しい第2主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と語っている。

〔第四楽章〕 FINALE

第1呈示部＝まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部＝この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌い加わる。

再現部＝やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わせられて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ＝曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。



「熊本県民第九の会」合唱団

インスペクター 神田 一 伸 CHORUS

Soprano  
(ソプラノ)

相川久仁子	鮎田逸子	池上裕子	池田眞惟	井芹順子
伊藤春美	入部一代	岩永宣子	岩本陽子	上村貴世
大石洋子	大村由美子	緒方和子	小倉真里子	川田幸子
川部恵子	菊池淳子	清永ヤヨヒ	久保田雅子	熊谷英子
蔵元由美子	黒田淳子	小鳥淑子	古城久美子	佐藤扶美
清水圭子	陣内祥子	杉本由美子	瀬口章子	園田中
高岡久美子	森さつき	竹原由美子	田島幾子	中村フミヨ
種子野栄子	寺澤孝子	永田桂子	中村あずさ	中村えみ子
中村久代	野村祥加子	橋本千佳代	服部敬子	濱田洋子
早田章子	春田香子	東 恵子	東 由紀子	日吉由肢瑚
福田睦子	藤田悦子	藤本淑子	前田弥生	増永明美
松川千品	松原久美子	山門寺阿古	光多ノリ子	光延美穂子
宮本奈都美	宮本はつみ	山腰万里子	山崎はるみ	山本美穂子
横田味詠子	吉武信子	吉野光子	米田加奈美	

Alto  
(アルト)

明石瑠璃子	葦原久美子	荒木斐子	荒木のり子	荒木雅子
池田睦子	石坂真好	石原薫子	石原昌子	伊藤雅紀子
伊藤公子	今村かをる	上田果奈子	内田禮子	梅本郁子
江崎恭子	大久保庸子	大地実子	大塚喜久子	大塚幸子
大堂喜三子	大沼美智子	大橋理恵子	緒方満喜子	沖米田恵子
小田小百合	小田原純子	小山智子	榎原悦子	川野田津子
菊池吟子	北原雅子	北村秋代	木原美智代	草刈登喜代
工藤敏代	倉岡睦子	栗秋千恵子	栗崎峯子	後藤敬子
西郷滯子	神原美智子	佐藤加代子	佐藤美由紀	志垣美貴子
杉谷由幾子	鈴木頼子	高濱左衛子	高森尚子	高森道子
田川尚子	田北真理子	坪井瑞代子	富永育代子	田上冷子
中村民代	名島和美子	奈須桂子	西 広子	中垣紀美恵
西田美津子	西山尚子	野村ちひろ	橋口泰子	錦戸美奈子
浜田由美子	早川陽子	原直美子	平田京子	馬場美也子
深水美穂子	福嶋邦子	藤本綾子	藤山朋子	廣田邦子
藤原道子	淵上みどり	古谷道子	牧嶋喜代子	藤原美智子
松村恵美子	丸岡升子	峯田道子	宮川由紀子	松田由美子
宮原千草	宮原徳子	宮辺浩子	宮本裕子	三宅恵美子
森敬子	森扶美代	安田美喜子	八田セツ子	村上直美
山道きよの	横田優子	吉島幸子	吉村由紀子	山口千春

「熊本県民第九の会」合唱団

Tenor  
(テノール)

青木敬也	赤川吉英	荒木良吾	井澤博視	一山育男
上村哲也	岡本登夫	木村敏之	園城陽二	山池範明
清野浩一	小寺康夫	堺公重	坂口幸男	笹田亮人
潮崎真一	高倉正純	田尻重信	塚本哲	柘植治
名島弘和	西口明弘	西田博之	橋口正太郎	平林武樹
林瑞栄	深水博元	藤嶋浩三	藤本信久	古木英治
道田好日	村井良司	村上忠郎	免出雅俊	森 三千雄
矢上一英	葉 勝信	米田春樹		

Bass  
(バス)

赤池庄一	荒木隆祐	安藤敬久	石原陽平	黄木淳毅
大津敬一郎	金子敬次郎	河野清治	河野義孝	神田一伸
木庭正士	小森田浩	近藤隆	鈴嶋孝将	鈴田伊知郎
高木幹史	高塚敬介	田邊和弘	種子野雄一	土井聖志
中原司人	中村義彦	橋口治	花田淳	橋本宏志
春木悟二	福嶋義矢	福池淳一郎	福池裕	藤田真也
星乃洋二	前川賢夫	松村雄二郎	許田重治	和田建一郎

あなたも第九を歌ってみませんか

熊本県民第九の会は、県立劇場の柿落としの事業として「ベートーヴェンの第九」が企画され、オーケストラは熊響、合唱団は広く県民に呼びかけ結成され、熊本県民手作りの演奏会として開催されました。

この演奏会が大変好評で、関係者の皆様から熊本県民の第九として継続してほしいとのご要望から、実行委員会が組織され、プログラム末尾に記載のとおり、毎年国内外の著名な指揮者・ソリストを招いて開催しています。

一流の指揮者、ソリスト、約80名からなるオーケストラ、そして約250名の合唱団。この大編成のステージに立って同好の仲間と歌う感動・感激は体験した人しかわかりません。

聴くだけでも感動する「ベートーヴェンの第九」です。皆様方も、この第九の合唱に参加し、体験することで、感動を一層大きく深いものにしてみませんか。

県民第九の会の合唱団員募集期間は毎年6月上旬からはじまり、7月末日が締め切りとなっています。「合唱団員募集要項(申込書)」は6月上旬から県立劇場・市民会館シアーズホーム夢ホール・西野楽器店その他県内の主要文化施設に置きますのでご利用下さい。

練習期間は8月中旬に結団式を行い、9月から12月まで月3回程度のペースで、主として日曜・祭日の午後に合計13~14回程度の練習です。

来年は是非お申し込み頂きたく、ご案内申し上げます。

皆様方のご参加を心からお待ちしています。

熊本県民第九の会実行委員会  
お問合せ 事務局 090-2851-1007



# 熊本交響楽団

インスペクター 日野 栄理 KUMAMOTO SYMPONY ORCHESTRA

## <コンサートマスター> 高木 範貢

### <1stヴァイオリン>

鬼塚 雅子	白川 妙子	高木 恭子	高木 範貢	田中 真由美
田上 るみ子	黒葛原 契子	中山 文子	西村 勇也	原 雅子
村田 裕子	山田 恭子	柚原 三弥子		

### <2ndヴァイオリン>

岩橋 和江	岡 純子	佐藤 葵	椎葉 耀生	新川 友香子
高木 信雄	谷川 くみ子	中尾 麻美子	東 眞知子	平井 隆博
村田 裕未	山口 初実			

### <ヴィオラ>

荒木 拓実	荒木 智子	池辺 京子	甲斐 和恵	桂 敦子
甲田 啓子	黒葛原 潔	遠山 良子	野村 和希	マシュー サイバート
水田 剛	山崎 崇伸			

### <チェロ>

内賀嶋 直美	緒方 夕香	小西 満芳	齋藤 和希	槌田 博文
長坂 輝喜	廣田 公美子	小佛 かつよ	佛淵 信夫	

### <コントラバス>

後藤 誠司	坂田 英津子	白木 信一郎	園屋 直樹	田上 博子
竹内 尚志	原田 直実	姫路 夏子		

### <フルート>

其田 恵理子	塚本 菜月	日野 栄理		
--------	-------	-------	--	--

### <オーボエ>

片岡 久哉	武内 桃子	辰野 裕昭	永野 祥子	森山 留美
-------	-------	-------	-------	-------

### <クラリネット>

岩瀬 里佳	黒木 健次	高野 栄次	原 敏郎	前野 美千代
-------	-------	-------	------	--------

### <ファゴット>

小田 穂積	蓮沼 昇	福岡 美里	米村 佳高	
-------	------	-------	-------	--

### <ホルン>

河村 サトミ	齊藤 恵之	坂口 学	猿渡 伸之	野村 梢
平田 幸寛				

### <トランペット>

今村 隆志	姫路 恭輔	堀江 幸司		
-------	-------	-------	--	--

### <トロンボーン>

梅田 雄介	濱崎 美幸	原 翔真		
-------	-------	------	--	--

### <チューバ>

府 高 隆				
-------	--	--	--	--

### <ティンパニ>

白尾 友宏				
-------	--	--	--	--

### <パーカッション>

富永 忠男	福島 達之	福島 好		
-------	-------	------	--	--

## ● 熊本交響楽団のプロフィール ●

熊本交響楽団は1965年秋、市民オーケストラとして結成された。翌66年5月、県立図書館ホール(現県立美術館分館)において第1回定期演奏会を開催し、以来年2回の定期演奏会を軸に、熊本県民第九の会演奏会、熊本音楽連盟演奏会、八代市中学生音楽教室、県内各地への巡回公演など、その活動は多岐にわたっている。

創立以来、50年目の2016年1月には、第100回の記念すべき定期演奏会が行われ、国際的にも活躍中の山田和樹氏を指揮者に迎えてのマーラーの第九交響曲は熊響の歴史に残る感動的な演奏として現在もなお語り草となっている。

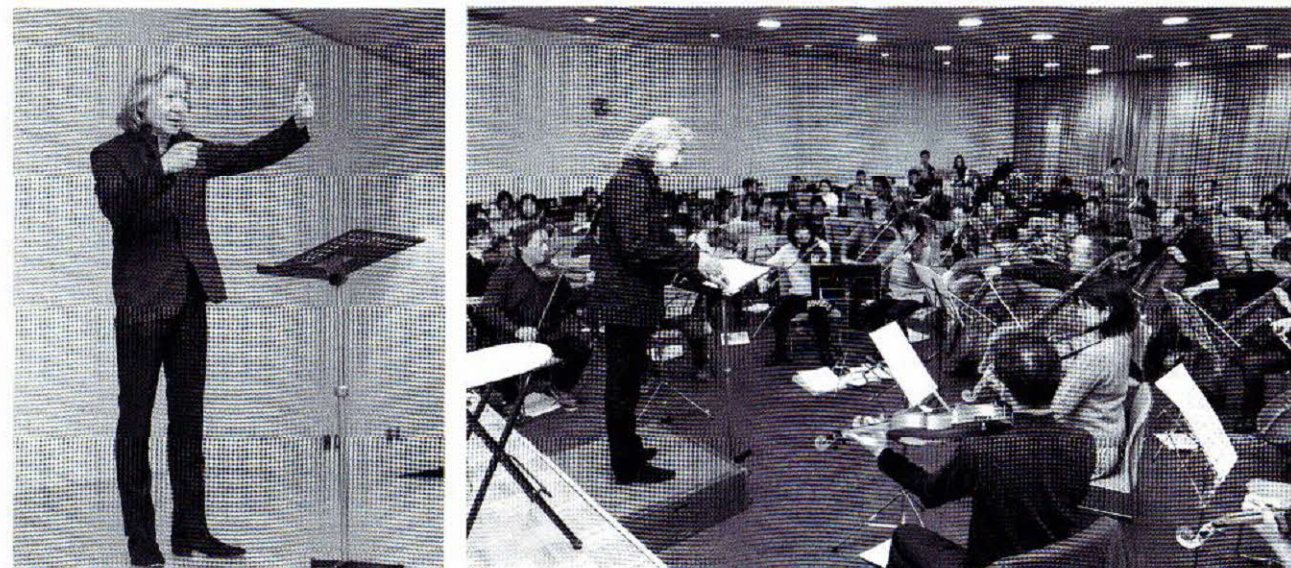
また、第8回全国アマチュアオーケストラフェス

ティヴァル熊本大会や第2回国民文化祭など全国的な催しのほか、中国やアメリカ、ヨーロッパへの演奏訪問、東京での新幹線誘致コンリートをを行うなど幅広い活動を展開している。

現在音楽の専門家をはじめ、会社員や公務員、主婦、学生など様々な職業の団員約150名で構成され、これまで1974年第9回熊本県文化懇話会新人賞、1984年度文化庁地域文化功労者表彰、1990年第1回くまもと県民文化賞、2011年熊本県芸術文化祭奨励賞、および第9回公德賞、2017年第4回熊本市民財団奨励賞を受賞した。

熊本音楽連盟、日本アマチュアオーケストラ加盟に所属。

## 合唱団とオーケストラの練習風景スナップ





合唱団とオーケストラの練習風景スナップ



熊本県民第九の会のあゆみ

第1回 昭和57年12月28日(火) 越天楽(雅楽)(近衛秀麿編曲)



指揮/山田 一雄



独唱/新 圭子



木村 宏子



伊豆野 修



高橋 修一

第2回 昭和58年12月11日(日) 楽劇「ニルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/大友 直人



独唱/高見久美子



岡 ますみ



大野 光彦



柴田 啓介

第3回 昭和59年12月27日(木) 弦楽のためのアダージョ 作品11(バーバー作曲)



指揮/山岡 重信



独唱/中沢 桂



木村 宏子



板橋 勝



池田 直樹

第4回 昭和60年12月25日(木) 「レオノーレ」序曲第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/フランツ・エックワイサー



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



伊達 英二



中村 邦男

第5回 昭和61年12月27日(火) トッカータとフーガ 二短調(J.S.バッハ作曲/ストコフスキー編曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/津下美奈子



木村 宏子



鈴木 寛一



芳野 康夫

第6回 昭和62年12月26日(土) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/中沢 桂



木村 宏子



近藤 伸政



栗林 義信



第7回 昭和63年12月25日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/三縄みどり



木村 宏子



鈴木 寛一



平野 忠彦

第8回 平成元年12月24日(日) 「プロメテウスの創造物」序曲 作品43(ベートーヴェン作曲)



指揮/小松 一彦



独唱/秋山恵美子



木村 宏子



成田 勝美



高橋 啓三

第9回 平成2年12月23日(日) 「ロザムデ」序曲 作品26(シューベルト作曲)



指揮/初山 和明



独唱/山田 綾子



木村 宏子



大野 徹也



福島 明也

第10回 平成3年12月23日(月) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/西森 由美



木村 宏子



田中 誠



宮原 昭吾

第11回 平成5年12月23日(木) 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/河添富士子



春日 成子



小林 彰英



栗林 義信

第12回 平成6年12月25日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/岩永 圭子



妻鳥 純子



饗場 知昭



勝部 太

第13回 平成7年12月24日(日) モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」k.618(モーツァルト作曲)



指揮/金 洪才



独唱/西森 由美



妻鳥 純子



大島 博



大島 幾雄

第14回 平成8年12月23日(月) カンタータ第147番よりコラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147(J.S.バッハ作曲)



指揮/本名 徹二



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



瀬戸口 浩

第15回 平成9年12月21日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/志岐由理子



妻鳥 純子



牧川 修一



小川 裕二

第16回 平成10年12月20日(日) 「レオノーレ」序曲第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



岩森 美里



井ノ上 了史



瀬戸口 浩

第17回 平成11年12月19日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/レオクレーマー



独唱/水野 貴子



青山智英子



持木 弘



松本 進

第18回 平成12年12月23日(土) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



大島 幾雄



第19回 平成13年12月23日(日) 歌劇「魔弾の射手」序曲(ウェーバー作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/佐々木典子



青山智英子



井ノ上 了吏



松本 進

第20回 平成14年12月22日(日)



指揮/松尾 葉子



独唱/三縄みどり



杉野 麻美



米澤 傑



瀬戸口 浩

第21回 平成15年12月21日(日) 喜歌劇「こもり」序曲(J.シュトラウス作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



大林 智子



米澤 傑



松本 進

第22回 平成16年12月26日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/大山平一郎



独唱/安藤赴美子



一色 礼子



五十嵐 修



木村 俊光

第23回 平成17年12月25日(日) 序曲「コリオラン」 八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



大間知 寛



佐久間 伸一

第24回 平成18年12月24日(日) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/西森 由美



岩森 美里



井ノ上 了吏



小川 裕二

第25回 平成19年12月23日(日) 混声合唱のための「うた」から(武満徹作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/佐々木典子



加納 里美



井ノ上 了吏



佐野 正一

第26回 平成20年12月21日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/澤 和樹



独唱/松本美和子



山下 牧子



米澤 傑



松岡 聡

第27回 平成21年12月20日(日) 序曲「献堂式」 八長調 作品124(ベートーヴェン作曲)



指揮/現田 茂夫



独唱/三縄みどり



加納 里美



樋口 達哉



堀内 康雄

第28回 平成22年12月26日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/角田 鋼亮



独唱/藤本いくよ



山下 牧子



大澤 一彰



小川 裕二

第29回 平成23年12月25日(日) 交響詩「フィンランディア」 作品26(シベリウス作曲)



指揮/新田 ユリ



独唱/本松 三和



山下 牧子



米澤 傑



松岡 聡

第30回 平成25年12月22日(日) 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



大林 智子



大澤 一彰



佐久間 伸一



熊本県民第九の会のあゆみ

第31回 平成26年12月7日(日) 序曲「コリオラン」八短調 作品62 (ベートーヴェン作曲)



指揮/新田 ユリ



独唱/河添富士子



愛甲 久美



樋口 達哉



平和 孝嗣

第32回 平成27年12月6日(日) 「エグモント」序曲へ短調 作品84 (ベートーヴェン作曲)



指揮/小森 康弘



独唱/福嶋 由記



兼武 尚美



土崎 譲



水野 洋助

第33回 平成28年12月25日(日) 「ロザムンデ」序曲 八長調 作品26 (シューベルト作曲)



指揮/金 洪才



独唱/西森 由美



鳥木 弥生



馬場 崇



牧野 正人

第34回 平成29年12月3日(日) 序曲「コリオラン」 八長調 作品62 (ベートーヴェン作曲)



指揮/松井 憲太



独唱/藤本いくよ



清水 香澄



与儀 巧



佐竹 敬雄

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	下田 幸城	委員	岩代 和武	高倉 正純
	林原 隆治		梅田 雄介	田北 洋康
	草刈 秀士		大石 洋子	西村 勇也
委員長	神田 一伸		園城 陽二	藤本 幸弘
事務局長	坂口 幸男		川田 幸子	山崎 崇伸

歓喜の歌

Freu - de, schö ner Göt - ter fun - ken, Toch - ter aus E  
 フロイ デ シェー ネル ゲッ テル フン ケン トホ テル アウス エ

ly si um, Wir be - tre - ten feu - er - trun - ken,  
 リー ズィ ウム ヴィル ベ トウレーテン フォイ エル トウルンケン

Himm - li sche, dein Hei lig - tum! Dei - ne Zau ber  
 ヒム リ シェダイネ ハイリヒ トウム ダイ ネ ツァウベル

bin den wie - der, was die Mo - de streng ge - teilt; al -  
 ビン デン ヴィーデル ヴァスディー モー デ シュトレングゲ タイルトア

- le Men schen wer den Brü - der, wo dein sanf - ter  
 レ メンシェン ヴェルデン ブリウー デル ヴォダイネ ザンフテル

Flü - gel weit; Dei - ne Zau - ber bin - den wie der,  
 フリュ - ゲルヴァイルト ダイネ ツァウベル ビン デン ヴィーデル

was die Mo - de streng ge teilt; al le Men schen  
 ヴァスディー モー デ シュトレングゲ タイルトア レ メンシェン

wer - den Brü - der, wo dein sanf - ter Flü - gel weit.  
 ヴェルデン ブリュ - デル ヴォダイネ ザンフテル フリュ - ゲルヴァイルト